

# 令和4年度事業報告

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

## 【I】基本方針

コロナ禍による社会活動の制限が人々の生活様式に急激な変化をもたらし、スポーツの力を活用したSDGs達成への貢献の期待とともに、人々の健康志向とスポーツへの関心はますます高まっています。

このような情勢下、スポーツ科学の振興と健全なスポーツ活動の発展に永続的に寄与することを目的とする当財団では、引き続きこの期待に応えるべく事業活動の推進を図ってまいりました。

健康の増進と体力の向上及びスポーツ関連科学に関する調査・研究に関する助成事業では、公募により財団選定テーマによる課題学術研究助成及び自由課題学術研究助成を引き続き実施いたしました。スポーツ関連科学及びスポーツの普及・振興・発展を目的とする団体の助成事業では、6つの研究機関・団体に対して助成を行いました。

## 【II】事業報告

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ科学に関連する調査・研究に対する助成。  
(第45回として令和5年2月に交付)

### 1)課題学術研究(4件 各100万円、総額400万円)

本年度テーマ「暑熱環境下における運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現するウェア、用品に関する研究」、「運動時におけるウェアの快適性実現の手法、あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」、「運動時のウェアの快適性と皮膚感覚に関する研究」、「ウェアによる身体の動かしやすさへの影響に関する研究」について公募し、学術委員及び事務局が推薦した者を理事会の諮問機関である学術委員会において審議、決定し下記4件に対し助成を行いました。

- ① セルロースを原料としたサステナブルなひずみ可視化シートの創成と応用  
東京理科大学 古海 誠一
- ② オープンウォータースイマーの皮膚温度感覚特性とウェットスーツ普及のための基礎的研究  
新潟医療福祉大学 藤本 知臣
- ③ 衣服内および衣服外の温湿度を局所的に評価する安価で簡便な新手法の開発  
新潟大学 天野 達郎
- ④ ファン付きベストの着用が夏季の屋外練習時における高校生アスリートのパフォーマンスと熱中症予防効果に及ぼす影響  
姫路獨協大学 大谷 秀憲

2)自由課題研究(18件 総額1,000万円)

全国にわたる61の大学または、その他の学校、研究機関より応募された75件の課題の中から学術委員会の審査の結果、下記18件に対し助成を行いました。

《最優秀入選(100万円)》

- ① 骨格筋への電気刺激はどこまで運動の代替となるか?応用可能性の検証  
電気通信大学 安藤 創一
- ② 6軸触覚センサ搭載インソールを用いた走行時の足裏反力計測  
慶應義塾大学 高橋 英俊

《優秀入選(各50万円)》

- ③ 運動後の筋痛は筋損傷の指標となるか?—非侵襲的な筋損傷の測定手法を用いた検討—  
新潟大学 国正 陽子
- ④ 血流制限を併用したレジスタンス運動の効果:低負荷×長時間と高負荷×短時間の比較  
北翔大学 沖田 孝一
- ⑤ 運動イメージが感覚運動統合能力に及ぼす影響の検討—効果的な運動イメージトレーニングの開発を目指して—  
大阪大学 佐々木 睦
- ⑥ 3D着装シミュレーションにおけるスポーツ衣料の質感の評価基準  
信州大学 金 昃屋
- ⑦ 2型糖尿病患者に対する食事運動療法の効果と爪床毛細血管の形態変化の関連について  
東京大学医学部附属病院 三好 建吾
- ⑧ 衣服と皮膚の接触に伴う皮膚振動に関する基礎研究  
文化学園大学 佐藤 真理子
- ⑨ トレーニングがもたらす骨格筋の腎保護作用  
東京大学医学部附属病院 西 裕志
- ⑩ 発汗による機能性スポーツインナーのパフォーマンスへの影響  
大妻女子大学 水谷 千代美
- ⑪ 過去の運動習慣が将来のうつ・不安を予防するメカニズムの解明  
佐賀大学 富賀 裕貴
- ⑫ 発育期の子どもにおける運動制御の正確性と運動単位活動との関連  
中京大学 奥平 柁道
- ⑬ 陸上競技長距離選手における重ね着を活用した持久性トレーニングの効果  
立命館大学 後藤 一成
- ⑭ スポーツ脳震盪の診断と競技復帰に関わる唾液中のバイオマーカー探索研究  
大阪大学医学部附属病院 中村 洋平
- ⑮ 膝関節伸展位固定を用いた運動連鎖の遮断による慢性足関節不安定症の新たな評価手法の開発  
新潟医療福祉大学 菊元 孝則
- ⑯ 異なるハーフタイム戦略がサッカー選手の反復性スプリントパフォーマンスに与える影響  
広島大学 柳岡 拓磨
- ⑰ 膝前十字靭帯再建術後の筋力低下に対する新たな治療方法としてのCryotherapyの効果  
山梨大学 吉井 諒

⑱ パラアスリートの体水分量測定による摂取エネルギーコントロール法

国立病院機構西別府病院 松田 貴雄

○学術委員（順不同、敬称略）

川原 貴	井上 真理	押田 芳治
緒方 徹	梶原 莞爾	上條 正義
佐藤 祐造	島崎 恒藏	下光 輝一
下村 吉治	田島 文博	田畑 泉
田村 照子	永富 良一	西村 太良
檜垣 靖樹	平田 耕造	廣田 孝子
福永 哲夫	藤本 繁夫	吉岡 利忠

○第45回研究成果報告書提出 令和5年6月

(2)スポーツ関連科学の発展を目的とする研究機関・団体の助成（3件 各50万円  
総額150万円、令和5年3月）

- 1)諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、一般社団法人日本体力医学会への助成を行いました。
- 2)スポーツ関連科学の発展を推進するため、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会への助成を行いました。

(3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（3件 総額650万円、令和5年3月）

- 1)国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、公益財団法人日本スポーツ協会に助成を行いました。（250万円）
- 2)オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化に寄与するため、公益財団法人日本オリンピック委員会に助成を行いました。（250万円）
- 3)障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与するため、公益財団法人日本パラスポーツ協会に助成を行いました。（150万円）

(4)機関誌の発行

コロナ禍により研究が遅れていました令和元年及び令和2年度の事業成果を公表するため、第42回及び第43回の研究成果報告書を中心とする「デサントスポーツ科学」第42巻及び第43巻を発行し、全国の大学、図書館、研究機関へ配布いたしました。令和3年度の事業成果を公表するため、第44回研究成果報告書を中心とする「デサントスポーツ科学」第44巻を令和5年2月にE-ジャーナルとして発行し、ホームページに掲載いたしました。

(5)「デサントスポーツ科学」のデータベース化

当財団の機関誌「デサントスポーツ科学」は、体育学、健康科学、人間工学、被服科学など幅広い研究を掲載しており、信州大学繊維学部が推進している「産学連携情報提供支援データベース」に第43巻までを、J-STAGEには第42巻から第44巻までを登録いたしました。これにより、機関紙の内容が世界に向けて公開されることとなり、併せて、学术论文の質的向上が図れることを期待できます。

以上

内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成しておりません。

# 令和4年度決算報告書

## 貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	7,885,506	8,766,630	△ 881,124
流動資産合計	7,885,506	8,766,630	△ 881,124
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	7,042,356,020	5,315,239,585	1,727,116,435
普通預金	233,000,000	0	233,000,000
定期預金	0	240,000,000	△ 240,000,000
基本財産合計	7,275,356,020	5,555,239,585	1,720,116,435
固定資産合計	7,275,356,020	5,555,239,585	1,720,116,435
資産合計	7,283,241,526	5,564,006,215	1,719,235,311
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	19,842	88,152	△ 68,310
流動負債合計	19,842	88,152	△ 68,310
負債合計	19,842	88,152	△ 68,310
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	7,275,356,020	5,555,239,735	1,720,116,285
指定正味財産合計	7,275,356,020	5,555,239,735	1,720,116,285
(うち基本財産への充当額)	(7,275,356,020)	(5,555,239,735)	(1,011,478,716)
2. 一般正味財産	7,865,664	8,678,328	△ 812,664
(うち特定資産への充当額)			
正味財産合計	7,283,221,684	5,563,918,063	1,719,303,621
負債及び正味財産合計	7,283,241,526	5,564,006,215	1,719,235,311

## 正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	4,104,799	7,361,910	△ 3,257,111
基本財産受取配当金	41,318,575	0	41,318,575
基本財産運用益計	45,423,374	7,361,910	38,061,464
②特定資産運用益			
特定資産受取利息		360	△ 360
特定資産運用益計	0	360	△ 360
③受取寄付金			
受取寄付金振替額	7,000,150	30,000,000	△ 22,999,850
受取寄付金計	7,000,150	30,000,000	△ 22,999,850
④雑収益			
受取利息	379	345	34
雑収益	43,149	26,400	16,749
雑収益計	43,528	26,745	16,783
経常収益計	52,467,052	37,389,015	15,078,037
(2) 経常費用			
①事業費			
支払報酬	203,310	406,620	△ 203,310
会議費	2,290,864	1,317,818	973,046
旅費交通費	1,801,825	83,080	1,718,745
通信運搬費	29,672	78,046	△ 48,374
研究助成費	14,130,000	27,100,472	△ 12,970,472
支払手数料	3,537,600	3,537,600	0
諸謝金	338,850		338,850
支払寄附金	8,000,000	16,000,000	△ 8,000,000
資料収集調査費	1,236,000	733,800	502,200
機関誌発行費	15,387,878	1,064,124	14,323,754
雑費	300,000	300,000	0
事業費計	47,255,999	50,621,560	△ 3,365,561
②管理費			
支払報酬	451,800	248,490	203,310
会議費	434,394	10,640	423,754
旅費交通費	830,776	28,470	802,306
通信運搬費	75,124	54,223	20,901
支払手数料	3,657,616	3,657,750	△ 134
賃借料	11,880	11,880	0
顧問料	264,000	264,000	0
租税公課			0
雑費	298,127	277,167	20,960
管理費計	6,023,717	4,552,620	1,471,097
経常費用計	53,279,716	55,174,180	△ 1,894,464
当期経常増減額	△ 812,664	△ 17,785,165	16,972,501
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 812,664	△ 17,785,165	16,972,501
一般正味財産期首残高	8,678,328	26,463,493	△ 17,785,165
一般正味財産期末残高	7,865,664	8,678,328	△ 812,664
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価損益等	1,727,116,435	2,004,777,259	△ 277,660,824
②一般正味財産への振替額	△ 7,000,150	△ 30,000,000	22,999,850
当期指定正味財産増減額	1,720,116,285	1,974,777,259	△ 254,660,974
指定正味財産期首残高	5,555,239,735	3,580,462,476	1,974,777,259
指定正味財産期末残高	7,275,356,020	5,555,239,735	1,720,116,285
III 正味財産期末残高	7,283,221,684	5,563,918,063	1,719,303,621

**正味財産増減計算書内訳表**  
令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	0	4,104,799	4,104,799
基本財産受取配当金	39,443,185	1,875,390	41,318,575
基本財産運用益計	39,443,185	5,980,189	45,423,374
②受取寄付金			
受取寄付金振替額	7,000,150	0	7,000,150
受取寄付金計	7,000,150	0	7,000,150
③雑収益			
受取利息	0	379	379
雑収益	0	43,149	43,149
雑収益計	0	43,528	43,528
経常収益計	46,443,335	6,023,717	52,467,052
(2) 経常費用			
①事業費			
支払報酬	203,310		203,310
会議費	2,290,864		2,290,864
旅費交通費	1,801,825		1,801,825
通信運搬費	29,672		29,672
研究助成費	14,130,000		14,130,000
支払手数料	3,537,600		3,537,600
諸謝金	338,850		338,850
支払寄附金	8,000,000		8,000,000
資料収集調査費	1,236,000		1,236,000
機関誌発行費	15,387,878		15,387,878
雑費	300,000		300,000
事業費計	47,255,999	0	47,255,999
②管理費			
支払報酬		451,800	451,800
会議費		434,394	434,394
旅費交通費		830,776	830,776
通信運搬費		75,124	75,124
支払手数料		3,657,616	3,657,616
賃借料		11,880	11,880
顧問料		264,000	264,000
租税公課			0
雑費		298,127	298,127
管理費計	0	6,023,717	6,023,717
経常費用計	47,255,999	6,023,717	53,279,716
当期経常増減額	△ 812,664	0	△ 812,664
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期一般正味財産増減額			△ 812,664
一般正味財産期首残高			8,678,328
一般正味財産期末残高			7,865,664
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価損益等			1,727,116,435
②一般正味財産への振替額			△ 7,000,150
当期指定正味財産増減額			1,720,116,285
指定正味財産期首残高			5,555,239,735
指定正味財産期末残高			7,275,356,020
III 正味財産期末残高			7,283,221,684

注) 共通費用は公益目的事業会計と法人会計に配賦している。

**財 産 目 録**  
令和5年3月31日現在

(単位：円)

科 目	使用目的等	金額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金	小口現金	125,017
普通預金 三井住友銀行船場支店	運転資金として使用している。	7,754,997
普通預金 北國銀行大阪支店	運転資金として使用している。	5,492
現金預金合計		7,885,506
流動資産合計		7,885,506
2. 固定資産		
基本財産		
投資有価証券 ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	公益目的保有財産であり、運用益を主に公益目的事業の財源として使用している。	100,000,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	同上	100,000,000
株式会社デサント株式1,652,743株（時価4,140円）	同上	6,842,356,020
普通預金 三井住友銀行船場支店	同上	233,000,000
基本財産合計		7,275,356,020
特定資産		
特定資産合計		0
固定資産合計		7,275,356,020
資産合計		7,283,241,526
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金	源泉税預り金	19,842
流動負債合計		19,842
負債合計		19,842
正味財産		7,283,221,684



## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得原価によっている。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	5,315,239,585	1,727,116,435	0	7,042,356,020
普通預金	0	233,000,000	0	233,000,000
定期預金	240,000,000	0	240,000,000	0
合計	5,555,239,585	1,960,116,435	240,000,000	7,275,356,020

(注) 1. 投資有価証券の増加額はデサント株式の期末時価評価による評価差額であります。

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	7,042,356,020	7,042,356,020		
普通預金	233,000,000	233,000,000		
合計	7,275,356,020	7,275,356,020	0	0

### 4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、評価額及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	評価額	評価損益
投資有価証券			
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	100,000,000	100,150,000	150,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	100,000,000	100,000,000	0
合計	200,000,000	200,150,000	150,000

### 5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

#### 指定正味財産から一般正味財産への振替額

科目	取得価額
寄付金への振替額	
理事会承認による指定解除	7,000,150
合計	7,000,150

# 監査報告書

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団  
理事長 石本和之殿

令和5年 5月30日  
公益財団法人 石本記念  
デサントスポーツ科学振興財団

監事 篠原 祥哲



監事 高木 茂太市



私たちは、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度における理事の業務執行及び会計の監査を行い、その方法及び結果について、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会及びその他の会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産状況の調査を行った。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討した。

さらに、会計帳簿並びに関係書類閲覧など必要と思われる調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

### (1) 事業報告書等の監査結果

- 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかった。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。